



青少年赤十字

ふくしま

編集発行

青少年赤十字
福島県指導者協議会
日本赤十字社福島県支部
〒960-1197
福島市永井川字北原田17
TEL024(545)7998

人間を救うのは、人間だ。
Our world. Your move.

自分たちの学校を創る



青少年赤十字福島県指導者協議会
副会長 松崎 健一

「気づき、考え、実行する」十八年前に、私が五学年主任になったときから子どもたちを指導する際に常に意識した言葉です。指示待ちの子どもが多いという大きな課題を抱え、子どもたちに響く何かよい言葉はないかと探していたとき、ある教育雑誌で出会いました。そして、第一期始業式前日に教室の黒板に書きました。恥ずかしながら、そのときは、青少年赤十字の態度目標として長きにわたり使われてきた言葉であることを知らずにいました。始業式の日の午後、校長先生がそのことを教えてくださいました。

「気づき、考え、実行する」問いかけられました。「花係になった小学一年生のA子さんが、毎朝忘れることなく真面目に外の花壇の花に水をあげています。ある雨の日、A子さんは傘をさしていつものように花に水をあげています。このとき、先生は何て声をかけますか。」私は「今日は雨なんだから水をかけなくてもいいんだよ。ありがとうね。」と答えました。最後に「ありがとう」を付けて行動を傷つけないようにすればいいだろうと考えていました。ところが、その校長先生は、どうして水をあげるのかをたずねたそうです。A子は、「だってね、葉っぱの下を見

るとね、土が乾いていてかわいそうでしょ。」私は、目に見える行動だけで考え、A子の気づきや思いまでは見ようとしていませんでした。自分の児童理解の浅さに愕然としたことを覚えています。校長先生は続けて、「気づき、考え、実行する」っていい言葉だね。是非、子どもの視座に立つて学年経営をお願いします。」と、話されました。私は、現小学校の校長として三年目を迎えました。今年度の最後の仕事は閉校させることです。赴任した当時は複雑な心境でしたが、学校生活で見られる子どもたちの生き活きとした姿を見て自分がすべきことが明確になりました。「気づき、考え、実行する」というプロセスを重視した学校教育を推進し、小学校の統廃合を含め、大きく変化していく社会の中でも主体的に対応しながら力強く生き抜く人間の礎を築くことです。そこ

で、今年度の子どもたちとの合い言葉を「元気で明るい自分たちの学校を創ろう」としました。終わることに目を向けさせるのではなく創り出すことにエネルギーを使って、来年度に繋げたいと考えたのです。子どもたちにとって分かりやすい「元気で明るい学校」を合い言葉に、学校を創るためにできることを考えて様々な取組をして欲しいと思ったのです。登下校の挨拶では、日々の授業では、運動会では、児童会活動ではと、子どもたちが「気づき、考え、実行する」場面は連続します。この小さな積み重ねが、

主体的に活動する個々の資質を高め、自分たちの学校を創ることになるのだらうと思うのです。今年度も、八月に二泊三日の日程で青少年赤十字福島県指導者講習会が郡山で開催されました。参加された先生方の研修意欲の高さを目にし、大変心強く思いました。青少年赤十字の理念が生かされる場が、学校教育の中にはたくさんあります。我々教員は、子どもたちの視座に立つて、「気づき、考え、実行する」子どもを育む学校教育を大いに展開することが求められているのではないのでしょうか。

令和元年度青少年赤十字
福島県指導者協議会総会開催

五月十六日(木)、日本赤十字社福島県支部において、福島県教育委員会教育長鈴木淳一様代理義務教育課主幹横山修様、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長松田貞夫様のご来賓と県内各地区の会長が出席され指導者協議会総会が開催されました。

会議では前年度の事業・会計決算報告、活動の反省、今年度の努力目標、事業計画が審議され、全て承認されました。また、今年度は九月に東北・北海道が所属する第一ブロック青少年赤十字指導者研究会が福島第一小学校を会場に開催されることが報告され

令和元年度 青少年赤十字 福島県指導者協議会役員名簿

役員名	氏名	学校名
会長	栞田 祐子	福島市立福島第一小学校
副会長	松崎 健一	小野町立浮金小学校
副会長	新井田克生	大熊町立大熊中学校
副会長	湯田 重哉	福島県立会津学鳳高等学校
監事	目黒 慎治	平田村立蓬田小学校
監事	伊藤 弘行	棚倉町立山岡小学校
監事	鈴木 睦治	福島県立菜高等学校

ました。福島第一小学校は青少年赤十字の理念を学校経営に位置づけ、日常的な学校生活の中で実践していることから授業公開も含めた研究会は学校経営の参考になったと思います。

原発事故から八年、避難指示が解除され学校が地元で再開されつつある中、少子化に



令和元年度の主な行事 (9月以降)

- **第一ブロック青少年赤十字指導者研究会**
期日 九月十日(火)・十一日(水)
場所 福島市立福島第一小学校 他
- **青少年赤十字福島県指導者協議会第二回会長会**
期日 十一月十四日(木)
場所 日赤福島県支部
- **フィリピンユースメンバー受け入れ**
期日 十一月五日(火)～十一月十一日(月)
場所 福島県高等学校青少年赤十字連絡協議会秋季総会参加
- **福島県高等学校青少年赤十字連絡協議会秋季総会**
期日 十一月八日(金)・九日(土)
場所 郡山市磐梯熱海温泉 清陵山倶楽部
- **詩・一〇〇文字提案作品表彰式**
期日 十二月二十四日(火)
場所 日赤福島県支部
- **青少年赤十字・スタディセンター**
期日 三月二十二日(日)～二十六日(木)
場所 山梨県山中湖村東照館

伴う学校統合や新学習指導要領への対応などから、トレセン、指導者講習会への参加が難しくなっているなどの課題があります。一方で、加盟登録式を実施する学校が増えたこと、青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち」ひろめるぼうさい」を活用しての防災教室を開催する学校が二十数校をかぞえるなど関心が高まっています。

態度目標の「気づき、考え、実行する」は今学校教育で期待されている「主体的で対話的な深い学び」に連なるものであり、自ら考え行動することの出来る児童・生徒の育成のためにも青少年赤十字活動の果たす役割は大きいと再確認することができました。

令和元年度 青少年赤十字指導者講習会



「気づき」「考え」「実行する」を心に刻んだ三日間

青少年赤十字が掲げる三つの実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の具現を図るため、日常生活で児童生徒一人ひとりの価値観を高める指導者の育

成と青少年赤十字活動の振興充実を目的に、八月七日(水)～九日(金)の二泊三日、左記の日程で郡山市青少年会館において開催されました。参加者は幼稚園一、小学校三十七、中学校十四、高校三の五十五名となりました。

受付から指示のない生活に始まり、VS(ボランタリーサービス)や先見といった特徴あるプログラム、待つことの大切さなど指導者として改めて自身自身に向き合うことが必要とされました。最終目標であるワークショップに向けて、仲間同士問題を共有しながら自らの課題に真剣に取り組んでいく様子が見られました。

この研修を通じて青少年赤十字への理解を深めるとともに、児童生徒の実践活動に活かしていくことが期待されます。

主な内容と講師(敬称略)

●講話

「赤十字と青少年赤十字」
学校法人松韻学園福島高校

根本 裕之

「先見・V.S等について」

賛助奉仕団 松本 光司

「ワークショップについて」
学校教育への生かし方」

白河市立信夫第一小学校長

木村 真一

●防災教育

「BCW ドローイング
チャレンジ」

賛助奉仕団 松本 光司

講話

「青少年赤十字と学校教育」

福島県教育庁県中教育事務

所指導主事 村越 洋平



日程表

時刻	8月7日(水)	8月8日(木)	8月9日(金)
6:00		起床・清掃 (VS 活動) 6:00~7:00	起床・清掃 (VS 活動) 6:00~7:00
7:00		朝の集い 7:00~7:30	朝の集い 7:00~7:30
8:00		朝食、VS 活動 7:30~8:30	朝食、VS 活動 7:30~8:30
9:00		先見 8:30~8:40	先見 8:30~8:40
10:00	受付 9:30~10:00 アイスブレイク・記念写真撮影・開講式 10:00~11:00	講話「青少年赤十字と学校教育」 8:40~10:10	ワークショップ (WS) 【HR】 8:40~12:00
11:00	講話「赤十字と青少年赤十字」 11:15~12:00	実践事例発表 西会津小・西会津中 10:20~11:20	
12:00	昼食 【HR】 12:00~13:00	フィールドワークについての説明 昼食 「ハイゼックス炊飯」 【三角巾の活用等】 11:50~13:30	昼食 12:00~13:00
13:00	講話「先見、V.S等について」 13:00~13:45	野外活動 「フィールドワーク (FW)」 13:30~16:30 【HR】	まとめ (WSの発表) 13:00~14:15
14:00	ワークショップ (WS)「学校教育への生かし方」 14:00~15:00	野外活動講評 16:00~16:30 【HR】	閉講式 14:30~15:30 解散予定 15:40
15:00	防災教育演習「BCW」 15:15~16:15	野外活動講評 16:00~16:30 【HR】	
16:00	【HR】「ワークショップテーマの設定等」 16:30~17:30	【HR】「活動の反省、一日の振り返り、これからの見直し等」 16:45~17:45	
17:00			
18:00		夕食、入浴 18:00~20:00 ※入浴は、19:00からです。	
19:00	夕食・交流会 18:00~19:30		
20:00	入浴 19:30~20:30		
21:00	自主研修時間 20:30~21:30	自主研修時間 20:00~21:30	
22:00	情報交換 (スタッフ打合せ) 21:30~22:00	情報交換 (スタッフ打合せ) 21:30~22:00	
23:00	消灯 22:00	消灯 22:00	

●実践事例発表

西会津町立西会津小学校

校長 岡崎 秀明

生江 和枝

西会津町立西会津中学校

校長 五十嵐正彦

佐瀬 裕子

令和元年度会津若松市立第二中学校勤務

●実技演習

「非常炊き出し(ハイゼックス炊飯)」

「応急手当(三角巾を使用して)」

日赤福島県支部

●実技

「フィールドワーク」

●演習ワークショップ

「JRC活動をどのように学校教育に生かすか」

●各HR担当

各HR担当

●各班のHRTから

福地 敏夫

充実の三日間の要因は自身とじっくり向き合うことでした。

箱崎 仁

今回の研修がJRC活動の「はじめの一步」になってくれれば幸いです。

浜津 昌宏

未来の福島の子どもたちのために少しでも力になれば最高です。福島県のため、夢ある福島の子どもたちのため頑張っていきたいと思います。

松本 仁子

魅力あふれる素敵な先生たちは福島県の宝物です。これからも熱い心で輝いて下さい。

木村 真一

JRCの理念をじっくりと体感できた三日間、児童生徒にぜひ生かしてください。

松本 光司

スタッフの汗が福島県のJRC活動を成長させていきます。ともに熱い汗を。

根本 裕之

人道について考え始めた今日がスタート。これからも頑張ってください。

青少年赤十字指導者講習会に参加して

「学びの土台づくりのために」

相馬市立向陽中学校 白石田優行

「みなさんは『お客様』ではありません。まず講習会の冒頭、胸に強く刺さった言葉です。本講習会は誰かに何かをしてもらう(求める)のが前提ではなく、自ら見通しをもって考えて行動しなければなりません。私たち教員は子どもたちに「自分で考えて行動しましょう」と主体性を促す場面があります

が、今回は私たちが実践する機会をいただいたのです。

とはいえ、青少年赤十字(以下JRC)指導者講習会への参加が決まっても、正直なところ三日間で何を学ぶのか、目的がはっきりしないまま初日を迎えました。

研修がはじまり赤十字の設立背景や行動理念である「人道」も、学校に生かすにして

も戦場と学校がお互い遠い存在に感じ、なかなか前向きにとらえられずにいました。しかし、講話を聞いていくうちに、J R C が掲げる指導理念は私たちが学校で生徒に指導していることではないかと気づいたのです。

J R C の態度目標である「気づき、考え、実行する」ことは、何もないところから生まれてきません。生徒に「考えなさい」「気づきなさい」と口先だけで指導したつもりになっても、生徒は「何に気づき、考えればいいのか？」となるはずで、行動の目的や判断の基準を自分の中に持っていないからです。教師は生徒が気づききつかけ、考える基準を与えなければなりません。そう考えると本講習会は私たちに多くのヒントを与えてくれた気がします。

次に何をすべきなのか、場面を考えながら見通しを持って行動しなければなりません。また、「先見」が求められたのです。特別な指示はなく、自分で考えて行動するために必要な情報は掲示板から得なければなりません。掲示板の使い方も工夫の余地があるとは思いますが、与えて

もらうだけでなく、生徒が自ら必然性に気づき、主体的・自律的な生活を送るために有効な手立てではないかと感じました。

また班での活動では自分一人ではできないことを他の先生方との協力によって解決することができ大変有意義でした。「協力」と一言で言っても、与えられた条件の中で求められていることに気づき、解決法を考え、自分の考えを伝える・聞く。そして班の中の一人として行動することが求められました。初対面同士でしたが、互いに認め合える雰囲気があったからこそ達成できたのではないのでしょうか。自分にはない視点で物事



を考える機会となり、先生方の発想や伝え方、行動から多くの刺激を受けることができました。ワークショップでの活動も校種も向き合う子どもたちの環境も異なる中で、それぞれの課題に向き合いながらも自分事のように一緒にあって解決法を模索してくれたことに感謝します。

最後に、ホームルームを担当してくださったスタッフから、「学習指導要領のポイント

「気づき」をつなぐ

福島市立庭塚小学校 政井 芳海

トに『主体的・対話的で深い学びを育む』とあるが、生活や習慣について指示を出すのに、学習だけが『主体的』になるはずがない。」との言葉がありました。「気づき、考え、実行する、振り返る」とは、学びの集団づくりの土台になるのです。三日間の研修ではたくさん刺激をいただき、ありがとうございます。次は私たちが生徒を変え

今回の研修初日に、私は思いがけず、参加された先生方の前で東日本大震災での被災の体験について話をすると、という時間をいただきました。私の周り（地元）には同じような経験をした人がたくさんいるので、正直、何も特別な話ではないと思います。思い浮かぶまま、頭に浮かんだことを浮かんだままに話しました。ほんの十分程度の、しかも拙く支離滅裂な話であるにも関わらず、先生方は一生懸命私の話

に耳を傾け、真剣に聴いてくださっていました。中には涙を流している方もおり、逆に申し訳なさすら感じてしまうほどでした。そして話を終えた後、「防災教育の大切さを改めて考えさせられた」「震災の体験談を生で聞くのが初めてで、より防災に対する意識が強くなった」「貴重な話をありがとうございます」などという言葉をかけてもらいました。「あ、この話をすることは、子どもたちだけではなくて、先生方や周りの大人にとっても、大切なことな

のかも知れない。」ということに気づいた瞬間でした。今回の研修に参加して、様々な校種の先生方と活動を共にしていく中で、たくさん刺激と学びを得ました。講話を聴いて、J R C 活動の学校教育への取り入れ方を知ることができました。そして、普段の自分がいかにぼやっと生きているかということや再認識し、子どもたちの成長の機会を奪わぬよう、「気づき、考え、実行する」ことができるといって思いました。VS活動では、自分にできること・やらなければならぬことは何なのかを考え、先を見越して行動することの大切さ・必要性を体感しました。ハイゼックス炊飯・三角巾の活用の実践では、知っておくべきことを知らないまま生きること、勿体なさを感じました。また、フィールドワークでは、得意なこととは出し惜しみせず、苦手なことは隠さずに助けも手など、チームで協力するということ、H R の先生方と楽しく活動する中で改めて感じました。さらに、ワークショップに向けた研修の時



にしていかねばなりません。時間と心に余裕を持ち、アンテナを高く張って情報を得ようとする事、そして何より自分の今の状態を自分で把握した上で、どうしたいのか、どうすべきなのか、どんなことをしたらいいかを考えることに。考えたら、きちんと実行に移すこと。そこでまた気づ

くことがあり、次のステップへ進んでいくことができるのだということ、三日間の研修を通して学ぶことができました。自分が身をもって感じた「気づき、考え、実行することの大切さを、子どもたちにも還元していきたいと思えます。

「福島県高等学校青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンターを実施して」

県高校TC主任 学校法人松學園福島高等学校 JRC 顧問

根本 裕之

には、いかに自分が、担任している子どもたちにしっかりと目を向けられていなかったか、向き合えていなかったか、ということを感じました。先生方のワークショップでの発表を聞いて、しっかりとビジョンを持って生きる事の大切さを教えてもらいました。

私は普段、目の前のことにいっぱいいっぱいになってしまいがちです。そうすると、自分の置かれている状況や為すべきことなどが見えず、気づくことができなまま日々を過ごす、といったことが多くなってしまう。そんな私が、三日間でこれだけたくさんの方に気づくことができました。これからは、考えて実行することができるよう

県高校TCは、七月十一日十三日に国立磐梯青少年交流の家で、加盟三十八校中の十七校から四十六名の生徒が参加して開催されました。

他県では三泊で行われることが多い県TCが、本県では長い間一泊で行われていました。TCが短くても、春の県総会(一日)、秋の県大会(二日)が行われ、年間の県全体での活動日数は他県よりも多いくらいでした。そのTCにここ数年をかけて改善が加えられ、一泊が二泊となり、指導スタッフ制が取り入れられ、ワークショップも実施さ

れるようになりました。

日頃からボランティア活動を行っている高校生たちは、ボランティアの現場の中でも成長していきますが、TCは二泊三日という短期間で生徒の意識を大きく変えることができます。生徒が大きく成長していることは、生徒自身が感想の中で一日目と三日目とでは考え方が変わったと書いていることからわかります。

プログラムは、赤十字概論、リーダーシップ、国際人道法、FW、WSと定番ですが、プログラムには、指導スタッフが工夫を凝らした生徒自らが

気づく仕込みがされています。そのため、生徒たちからは、一人ひとりがリーダーシップをとることの大切さを学んだ、昨年も参加したが新しい気づきがたくさんあったなどという声があがっています。教えられたことではなく、自ら気づいた学びなので、生徒たちにはしっかりと定着していくものと思われず。

また、SDGs、ゆるスポ(スポーツカルタ)など今までにない切り口からの講座も行われ、これからの時代の新しい社会との関わり方の学びがあったのも今年度の特徴でした。

TCは、教員が主導して運営するので、生徒が受け身になつてしまいがちですが、福



島県の高校生たちは、自ら学ぼうという意識や、自分を変えようという意識も高く、何事にも積極的に取り組んでいました。夜の自主研修では、教員がサポートしなくても自分たちでテーマを設定し、教えあったり意見交換をしたりしていました。献血をテーマにした自主研修では、校内献血を実施している学校の生徒がノウハウを参加者に紹介し、献血の輪を広めようとしていました。

高校JRCには、加盟校の減少という課題がありますが、TCを始めとした様々な活動の中には、社会貢献の志を持った生徒が集まり、主体的で深い学び、協働的な学びが展開されています。まさに教育改革で言われている教育がここにはあります。このJRCの良さを広め、さらなる活動の活性化につながってほしいと願っています。



福島県高等学校青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンター日程

時間	7月11日	7月12日	7月13日
6:00		起床	起床
6:30		先見	先見
7:30		朝のつどい	朝のつどい
		朝食	朝食
8:30	(移動)		
9:00		選択講座 A: 救急法 B: 国際理解 C: ボランティア D: 防災	ワークショップ解説
	(準備)		ワークショップ
10:00	受付		
11:00	アイスブレイク 開講式 オリエンテーリング	多様性とコンセンサス	ワークショップ発表 各HR
12:00	昼食 着替え	昼食	昼食 着替え
13:00	赤十字・青少年	フィールドワーク ・説明 ・開門	アンケート記入 閉講式
14:00	JRCのリーダー		
15:00	人道法	フィールドワーク講評	
16:30	ホームルーム1	ホームルーム2	
17:00	タベのつどい	タベのつどい	
18:00	夕食	夕食	
19:00	ゆるスポ	自主研修	
20:00	入浴/V. S.	入浴/V. S.	
22:00	就寝準備	就寝準備	
23:00	点呼(点呼後消灯)	点呼(点呼後消灯)	

**リーダーシップ
トレーニングセンターに参加して**

福島県立白河旭高等学校 二年 齋須いぶき

今回は私にとつてJRCリーダーシップトレーニングセンターへの二回目の参加となりました。

この研修では三日間、福島県内の高校生と赤十字の歴史をより深く知り、グローバル

イシューとその原因となる紛争や環境問題、噴火が起こった場合の防災方法などについて学習しました。

それぞれの分野の知識を深めることができ、他校の生徒とも活発に意見交換をするこ



とが出来ました。

この研修で特に思い出に残ったことが二つあります。一つ目はフィールドワークです。私は昨年の経験もあり、どのようなことにも対応できるように準備しましたが、本番では冷静さをかいてしまいました。そして、自分の知識不足も目立っていました。なので、もっと赤十字や救急法、防災についての知識を深めようと思いました。

二つ目はワークショップです。私は昨年参加した時に立案することが出来た子ども食堂へのボランティアをアップグレードしようと計画を進めました。

私は『高校生が子ども食堂

の利用者に勉強を教えるボランティア』をしようと考えました。学ぶ機会を皆等しく持つということが重要だと私は思っています。計画を一通り立て終え、先生方にアドバイスを伺いました。

先生方は一人ひとり違う視線で私にアドバイスをわかりやすくしてくださいました。そのおかげで、私は自分の計画を様々な観点で見ることが可能となり、計画もより具体的なものにする事ができました。

ワークショップ終了後、私は自分の計画を全体で発表することにしました。発表は綿密な計画を立てたこともあり、うまく伝えることができました。

たと思っています。でも発表後に、「それでは子ども食堂が塾のように堅苦しい場所になってしまわないか」という質問をもらいましたが、抽象的な言葉でしか答えられませんでした。

私には今回の研修で得た課題が山のようにあります。特に知識を身につけることと、物事を細かいディテールまで観察し、考察すること、何よりも自分で計画したボランティアを実現させることです。そのために、今までより多くのものの見方に気をつけながら、友人とボランティアの計画を進め、実行していこうと思っています。

一泊二日のトレセン

郡山市立芳賀小学校 校長 芳賀 伸介

郡山地区のトレーニングセンターは一泊二日で行うことが伝統となっています。今年も八月一日・二日、郡山自然の家で実施されました。例年より多い百六名の児童・生徒が参加して、とても活気あ

ふれるトレセンとなりました。

一日目の午前中は入所式グループワーク、学校紹介を行いました。グループワークでは自己紹介カードを作り班内の交流を図りました。

午後は賛助奉仕団の方によ



る講話「赤十字について」と指導員の方による「救命救急法」の実技を二つのグループに分けて交互に行いました。夜はナイトハイクを行いました。

二日目の午前中はフィールドワークを行う予定でしたが、猛暑のため短時間ででき

るミニスコアオリエンテーリングに変えました。午後は昼食をとり退所式を行い解散となりました。

トレセンを一泊二日で行うためには、かなりの準備を要します。事務局校を中心に準備を進めていきます。共催をいただいている県中地区賛助

奉仕団には全面的にご支援をいただきます。当日は各校から推薦していただいた先生方に運営に携わって頂きます。今年は二十三名の先生方に協力していただきました。これらの方々のボランティアによって郡山地区のトレセンは支えられています。

ご支援、ご協力いただきました方々に心より感謝を申し上げます。



児童の感想より

私は友達をたくさん作る事ができました。部屋の片づけなど生活面でもしっかりできました。赤十字の父アンリー・デュナンの言った「人間はみな兄弟」という言葉を聞いて、戦争のない世界をめざしていたことに感心しました。

赤十字の旗には戦争を止める力があると思いました。「気づき・考え・実行する」もとてもよい言葉だと思いました。友達と仲良く過ごすことができてとても楽しかったです。また来年も来たいと思います。

令和元年度 トレーニング・センター一覧

	地区	日程	場所	人数	内容
ト レ ー ニ ン グ セ ン タ ー 校	福島・伊達・安達	7月31日(水)	二本松市立大平小学校	25	・防災コミュニケーションワークショップ・非常炊き出し・応急手当・フィールドワーク
	郡山	8月1日(木)～2日(金)	郡山自然の家	106	・講話「赤十字について」・救急法・スコアオリエンテーリング・ナイトハイク
	会津北会津	7月31日(水)	国立磐梯青少年交流の家	41	・講話「赤十字の歴史とJRC活動について」子供にもできる応急手当・フィールドワーク
	両沼	7月26日(金)	福島県会津自然の家	71	・講話「JRC活動について」・AED講習会・オリエンテーリング
	耶麻	8月1日(木)	福島県会津自然の家	42	・災害炊飯体験・救急法講習
	西白河	7月31日(水)	白河市立表郷小学校	0	・防災コミュニケーションワークショップ・非常炊き出し
	いわき	8月2日(金)	いわき市立菊田小学校	13	・講話「JRC活動について」・心肺蘇生法・災害時シミュレーション・フィールドワーク
	高校県	7月11日(木)～13日(土)	国立磐梯青少年自然の家	46	・講話「赤十字・青少年赤十字概論」「JRCのリーダー」「人道法」・ゆるスポ・選択講座・フィールドワーク・ワークショップ
	県北	8月5日(月)～6日(火)	日赤福島県支部	28	・講話「国際人道法」・SDGs・福祉レクリエーション・非常炊き出し・防災演習
	県南	7月31日(水)	郡山市青少年会館	51	・救急法基礎講習・非常炊き出し・防災コミュニケーションワークショップ(竹ひごタワー)・県TC報告
会津	8月20日(火)	県立葵高等学校	17	・避難所運営ゲーム「HUG」・災害時図上訓練「DIG」	
いわき	8月9日(金)	いわき市労働福祉会館	21	・避難所運営実動訓練・三重県JRC活動発表・「世界の子どもにワクチンを」活動概要報告・ワークショップ	

令和元年度 青少年赤十字海外支援事業 バナアツスタディツアー

二〇一九年八月十七日(土)～二十四日(土) 訪問国 バナアツ共和国



日本赤十字社では青少年赤十字活動資金(二円玉募金)を財源とした海外支援活動を行っており、平成二十九年からはネパール赤十字社及びバナアツ赤十字社を対象とし

ています。昨年度に引き続き、今年度はバナアツ共和国に福島県立郡山高校二年の昆茉莉花さんが全国の仲間とともに派遣されました。

「人生の転機」

福島県立郡山高等学校 二年 昆 茉莉花

今回のスタディツアーで、私は八月十七日から二十八日までバナアツ研修に参加しました。私がこのツアーに参加した目的は、日本と同様に災害国であるバナアツがどのようにに防災を身に付けているのかを現地体験することで知ることです。私はこのツアーに参加するまでバナアツがどんな国なのか詳しく知りませんでした。しかし、そこから得られる経験があると思いを加を決めました。

またツアー五～六日目に訪れたメレ学校では避難訓練に参加しました。校舎が海の近くにあるため、二～三km先にある小



学校での防災教室

高い山のほうまで走っていききました。終わった後に生徒に感想と反省点を聞き、現地の先生方とも避難時にどう行動すれば最善か話し合いました。未だ防災・減災について知識を持っている教員が少なく、正しい知識を備えた教員の育成も課題の一つに挙げられています。ツアー四日目にラジオ局に行く機会があり、私は「なぜ防災について学ぼうと思ったの？」という質問に対して「東日本大震災を経験してから同じように支援を必要としている人たちの助けになりたい」と思っただけ」と答えました。災害時に頼みの綱となるラジオで防災の内容の放送が



一円玉募金で作成された自然災害に関するポスター

されているのは良い取り組みだと思いました。街中を移動している間にも津波が起きたときの避難する方向を示す看板やハザードマップが設置されているのを何度も見かけました。約三千人が暮らすメレ村へホームステイしたときには日本とは違った文化を経験することになりました。滞在中に一番印象に残ったことはニワトリの鳴き声で起床したこと。また、お互いについて話す時間が多かったのが一般の生の声が聞けたのは良かったです。日本からのプレゼントを渡したときは、とても喜んでもらったのが嬉しかったです。今回のスタディツアーに参加したこと、バナアツがどんな状況か、私にはどんなことができるのかを知る良いきっかけになりました。この経験を機に、今後のあらゆる活動においてさらに主体的に活動しようと思います。

日本赤十字社福島支部 創立130周年記念福島赤十字委員会

令和元年七月十八日(木)とうほう・みんなの文化センターにおいて、日本赤十字社名誉副総裁 寛仁親王妃信子殿下御臨席のもと、創立130周年記念福島県赤十字大会が開催されました。

次の先生方が青少年赤十字指導者として、銀色有功章を授与されました。

- 松本仁子先生 (福島県立福島東高等学校)、根本裕之先生 (学校法人松韻学園福島高等学校)、石田亨子先生 (学校法人山崎学園福島県磐城第一高等学校)、夷塚陽子先生 (学校法人昌平学園日本国際大学附属昌平高等学校)、菅野勇一郎先生 (福島県立福島北高等学校)

又、学校法人松韻学園福島高等学校JRC部部长 原大河さんが「十代の献血者の増加に向けて」と題して体験発表を行いました。受賞された皆さんおめでとうございます。

あ と が き



お忙しいところ原稿をお寄せいただき、ありがとうございます。